

日本電気泳動学会 児玉賞受賞者

回	受賞年	受賞者	受賞講演 演題 (賞状番号)
第1回	1962年	島尾 和男 橋 敏也	デンストメトリーに関する考察 (第1号) 濾紙電気泳動法における分画抽出法について(第2号)
第2回	1963年	平井 秀松 右田 俊介	ネズミ腹水肝癌の特異蛋白質について(第3号) 澱粉ゲル免疫電気泳動法(第4号)
第3回	1964年	赤井 貞彦 中村正二郎	癌患者の血漿蛋白像(第5号) 交差濾紙電気泳動法(第6号)
第4回	1965年	田中 享一	伝貧馬における血清蛋白質の研究(第7号)
第5回	1966年	三好 和夫 谷内 昭	血液蛋白病ないし蛋白病と電気泳動法(第8号) 血清 α -グロブリンの免疫電気泳動的研究(第9号)
第6回	1967年	該当者なし	
第7回	1968年	平山 千里	肝疾患と免疫グロブリン(第10号)
第8回	1969年	河合 忠	M蛋白血症(第11号)
第9回	1970年	該当者なし	
第10回	1971年	荻田 善一	血清酵素アイソザイムの遺伝生化学的研究(第12号)
第11回	1972年	竹尾 和典	ディスク泳動法による諸酵素の活性染色法 特にフォスフォリラーゼについて(第13号)
第12回	1973年	高月 清 福田 守道	骨髓腫蛋白の生物学的活性(第14号) 等電点分画による血清蛋白酵素の分析的研究(第15号)
第13回	1974年	西 信三	α -フェトプロテインの生化学的研究(第16号)
第14回	1975年	橋本 信也	ヒトリンパ球の細胞電気泳動的研究(第17号)
第15回	1976年	菅野 剛史 山崎晴一郎	酵素結合性免疫グロブリンに関する研究(第18号) 血漿リポ蛋白の代謝に関する研究(第19号)
第16回	1977年	漆崎 一朗 新津洋司郎	フェリチンに関する研究(第20号) 同上
第17回	1978年	馬場 茂明 大槻 真	ヒトアマラーゼアイソザイムの遺伝学的研究(第21号) 同上
第18回	1979年	井上 勤 栢口 正雄 加藤 豊 藤森 嘯	二次元アフィニティ電気泳動法による酵素の研究(第22号) 自動電気泳動装置(AES)の開発とその意義(第23号) 同上 同上
第19回	1980年	池本 卯典 水口 清	唾液蛋白及び酵素遺伝標識の電気泳動法による検出と遺伝学ならびに法医学的意義(第24号) 同上
第20回	1981年	北村 元仕 小林 邦彦	電気泳動法を用いた血清酵素異常の臨床的解析に関する一連の研究(第25号) ニワトリの多量体免疫グロブリンについて(第26号)
第21回	1982年	奥山 典生 真鍋 敬	組織蛋白質の検索表のための二次元電気泳動一蛋白質マップとポリペプチドマップ(第27号) 同上
第22回	1983年	大橋 望彦 戸田 年総	マイクロコンピューターを用いたセルロースアセテート膜二次元電気泳動法に関する一連の研究(第28号) 同上
第23回	1984年	該当者なし	
第24回	1985年	武田 和久 遠藤 康夫 林 泰三	レクチン親和電気泳動—抗体親和転写によるヒト α -フェトプロテインの分離検出とその臨床応用(第29号) 肝疾患およびヨークザック腫瘍におけるAFPの意義—とくにレクチン親和電気泳動法による分析(第30号) 急性のHypoxialにおける心筋ならびに血液のLDH-CPK-isoenzymeの変化(第31号)
第25回	1986年	櫻林郁之介 戸沢 辰雄	Western blotting法による蛋白質の解析(第32号) マスキングからとらえた酵素結合免疫グロブリンの臨床的研究(第33号)
第26回	1987年	原 三郎	前立腺特異抗原とくに γ -Seminoproteinについて(第34号)
第27回	1988年	小林 貞男 坂岸 良克 菰田 二一	アガロースゲル等電点電気泳動—支持体中の液流を中心として—(第35号) アルカリ性フォスファターゼ研究の進歩(第36号) 同上
第28回	1989年	古賀 俊逸	アポリポ蛋白測定の臨床的意義、とくに電気泳動法による分析を中心に(第37号)
第29回	1990年	中村 和行 芝 紀代子	ニトロセルロース膜を用いた蛋白質の疎水性に関する研究—プロットングからクロマトグラフィーまで—(第38号) 高圧セルロースアセテート膜等電点電気泳動法による血清蛋白質分析の至適泳動条件に関する基礎的研究とその応用(第39号)
第30回	1991年	藤田 清貴	異常免疫グロブリンの解析—特にLDH結合性免疫グロブリンを中心として—(第40号)
第31回	1992年	須藤加代子 今井 浩三	乳酸脱水素酵素異常に関する分子生物学的研究(第41号) 細胞間接着分子ICAM-1に関する研究(第42号)
第32回	1993年	吉岡 尚文	健康人の血清ハプトグロビン欠損について(第43号)
第33回	1994年	前川 真人	血清酵素異常の遺伝子解析に関する研究(第44号)
第34回	1995年	橋本寿美子	電気泳動法による血清蛋白質異常の解析— β 分画の解析—(第45号)
第35回	1996年	大谷 英樹 横濱 道成	血漿蛋白異常症の電気泳動および免疫化学的方法による解析(第46号) 動物由来の血漿蛋白ならびに遺伝子の各種電気泳動法による解析(第47号)
第36回	1997年	志村 清仁	アフィノフォレスス—研究を振り返って(第48号)
第37回	1998年	森山 隆則	マクロアマラーゼ血症に関する研究(第49号)
第38回	1999年	浅川 順一	二次元電気泳動法を用いた蛋白質レベル・遺伝子レベルでの変異検索(第50号)
第39回	2000年	松下 誠	小腸型アルカリ性ホスファターゼアイソフォームに関する研究(第51号)

第40回	2001年	伊東 文生 井本真由美	細胞外マトリックス分解酵素マトリライシンを用いた消化器癌の診断と治療(第52号) 異常免疫グロブリンの免疫化学的および物理化学的研究(第53号)
第41回	2002年	小山 岩雄 長坂 祐二	動物の肝臓組織で発現するアミラーゼの意義(第54号) ケルセチンによるタンパク質リン酸化の修飾 —ERK活性化に対する二相性の作用を中心に—(第55号)
第42回	2003年	平野 久	ゲル電気泳動法を用いたプロテアソーム蛋白質複合体の翻訳後修飾に関する網羅的な研究(第56号)
第43回	2004年	寺部 茂	キャピラリー電気泳動の特性を生かしたプロテオームおよびメタボローム解析法の開発(第57号)
第44回	2005年	中西 豊文	疾患関連蛋白同定のための電気泳動/質量分析法の確立と臨床医学への応用(第58号)
第45回	2006年	船渡 忠男	造血器腫瘍における抗がん剤耐性獲得機序に関する研究(第59号)
第46回	2007年	大石 正道 鈴木 潤 坂口 和子	一次元目のアガロースIEFゲルを用いた二次元電気泳動(アガロース2-DE)法を基盤とした疾患プロテオーム解析(第60号) 電気泳動法による有害物質の分析と生体影響(第61号) 同上
第47回	2008年	田淵 真理	ナタデココ支持体を用いた新しい電気泳動法の開発(第62号)
第48回	2009年	梶原 英之	電気泳動による農業生物タンパク質の動態解析(第63号)
第49回	2010年	豊田 実 近藤 格	がんにおけるエピゲノム異常の解析とトランスレーショナルリサーチ(第64号) 電気泳動法を用いたがん個別化医療のためのバイオマーカー開発(第65号)
第50回	2011年	木下英司	Phos-tag親和電気泳動法の開発(第66号)
第51回	2012年	該当者なし	
第52回	2013年	該当者なし	
第53回	2014年	該当者なし	
第54回	2015年	小寺 義男 武川 睦寛	電気泳動を基盤とした体液疾患プロテオーム解析法の開発と応用(第67号) MAPキナーゼ情報伝達経路の活性制御機構と疾患発症機構の解明(第68号)
第55回	2016年	佐藤 雄一	自己抗体を利用した腫瘍マーカー候補タンパク質の獲得(第69号)
第56回	2017年	飯島 史朗	電気泳動法を応用した種々の糖タンパク質と病態との関連解析(第70号)